

平成 30 年度 第 1 回安曇野市博物館協議会 会議概要

- 1 会議名 平成 30 年度 第 1 回安曇野市博物館協議会
- 2 日 時 平成 30 年 5 月 18 日 午前 10 時から午後 0 時 10 分まで
- 3 会 場 安曇野市役所本庁舎 3 階 会議室 305
- 4 委員出席者 宮澤委員、百瀬委員、古根委員、齋藤委員、小河委員、笹本委員、高原委員、  
細野委員、須之部委員、(金井委員欠席)
- 6 事務局出席者 西村教育部長、那須野文化課長、原豊科郷土博物館長、荒深豊科近代美術  
館兼飯沼飛行士記念館長、二村田淵行男記念館長、小倉穂高陶芸会館長、宮  
下高橋節郎記念美術館長、清水貞享義民記念館長、内川臼井吉見文学館長、  
財津博物館係長、逸見博物館係主査、倉石博物館係係員、三澤文化振興係長、  
諏訪文化振興係主任、堀文化振興係係員
- 7 公開・非公開の別 公開
- 8 傍聴人 1 人 記者 2 人
- 9 会議概要作成年月日 平成 30 年 5 月 25 日

協 議 事 項 等

○会議の概要

- 1 開 会 (那須野文化課長)
- 2 あいさつ (西村教育部長)
- 3 辞令交付 (西村教育部長)
- 4 自己紹介
- 5 説明 (博物館協議会について)  
博物館法、安曇野市博物館条例、第 2 次安曇野市文化振興計画について説明。
- 6 会長及び副会長の選出  
互選により、会長：笹本委員、副会長：百瀬委員で決定
- 7 協議・報告概要  
(1) 平成 29 年度事業報告について  
会 長 ・本委員会は博物館がより良くなるための委員会ですので、委員の皆様には活発  
なご意見をいただきたい。  
委 員 ・第 2 次安曇野市文化振興計画の中に自然環境について書かれているが、大事な  
ことである。自然環境の保全は、文化・芸術分野の人以外にもシンパシーを感じても  
らえるのでは。佐賀県では昇り窯を作って、小中学生含めた市民参加で火を焚く。こ  
れを安曇野市で松枯れの薪を使って行うことで、環境保全に繋がるのではないか。  
委 員 ・自然を調査・研究する拠点が安曇野市にないと思うので、あったほうがよい。  
豊科郷土博物館では植物の事について講座を開いているが、自然に関する資料を集め

ているところはあるのか。

会 長 ・長野県では歴史・民俗・総合博物館は何もない、しかし外に向かっては長野県の売りものは自然だと言っている。今回の協議会委員の特徴は、自然分野の専門の方が2名も入っていること。こういう構成にした意図があると思うので、事務局の方から意見等があれば言っていただきたい。

文化課長 ・自然に関する拠点施設は表立っては無いが、豊科郷土博物館が総合博物館という位置付けであり、この中に植物専門の研究者が1人働いていて、植物部会を立ち上げている他、長峰山の草原植物調査などを行っている。

また、教育会から寄贈された植物、昆虫標本については文化課の方でひきとり、堀金にある倉庫（かつて歴史民俗資料館だったが現在は閉館）に保管し定期的に資料整理をしている。それらを活用できる施設が出来るまで、現時点では調査・資料収集を地道に進めている。

なお、環境課で環境基本計画を基に安曇野の自然、保全ということを進めているため、タイアップしながら取り組みたい。

委 員 ・豊科郷土博物館紀要第5号の中で、長峰山の自然調査と研究成果が紹介されている。実に質の高い内容である。今後は、正規の学芸員を採用し、自然に関してより充実していくとよいのではないか。また、各館で年報を発行しているが、これをまとめて各館の歴史も集積していけば、やがて市史編纂にも役立つのではないかと思う。

会 長 ・松本市立博物館は紀要を作っていない。豊科郷土博物館では、いろいろな専門的要素を持った学芸員が、少数にも関わらずよくやっている。ただ、学芸員は仕事に追われており、研究できる状況ではない。市は学芸員が研究に取り組める体制を考えていただきたい。

副会長 ・先日、飯沼飛行士記念館と穂高郷土資料館を見てきた。飯沼飛行士記念館は以前と比べてガラッと変わっていた。接遇も良く館内でも飯沼飛行士の功績について熱く語られ、すごいと思った。そこで1つ提案だが、来館者にインパクトを残すために、館の入口に飯沼飛行士について何かキャッチコピーを付けて表示してはどうか。例えば「筆まめな飯沼飛行士」、「家族思いの飯沼飛行士」など。穂高郷土資料館は館内外が整備されており、職員が観光客に声をかけているものの、入館者が減っている。入館者を増やすためにゴールデンウィーク前に展示替えをして、市民に広報等で周知するとよいのではないか。

会 長 ・人を集めるためには広報が大事。事務局でも広報の方法について考えていただきたい。

委 員 ・この協議会で、各館がいかに来館者を増やすために尽力しているのか初めて知り、大変勉強になった。美術館・博物館へは展示空間のような非日常を求めて来る側面と、ワークショップのように日常に繋がっていく内容を求める側面があると思う。ユーチューブなどを見る子どもが多いが、美術館・博物館に連れて行くことが大事だと思った。

会 長 ・いかにして子どもたちと博物館・美術館をつなげていけるかが大事。ぜひ学校と連携して頂きたい。

委 員 ・コンパクト展示のアンケート回答数が2枚とあまりにも低すぎる。アンケート

は必要なのか、必要であればアンケートの内容をもっと簡単にしてはどうか。

- ・子ども達が興味を持つように、館内の順路に沿った足跡シールを貼ってはどうか。
- ・各館におすすめの撮影スポットをつくってはどうか。
- ・明科中学校は美術部が廃止された。美術をしたいという子ども達もいるはず。美術教員のOBや市内の作家がそういった子を教育するような受け皿をつくることはできないか。

会 長 ・アンケートについては回答率が増えるように市で考えてほしい。委員には、ここがよいスポットであるとか、こうした方がよいということをぜひ各館にも直接言っていてほしい。

委 員 ・各施設の前をただ通り過ぎてしまう人が多い。まず足を踏み入れてもらう必要がある。「あそこはもう行ったことがあるから」とならないように、お茶を飲めるなど、何回も来たくなるような場になると良いと思う。

会 長 ・なぜ人が来ないかというアンケートも必要。

委 員 ・田淵行男記念館がBS放送で取り上げられたとき、反響が大きかった。美術番組やドキュメント番組で取り扱ってもらおうよう広報してはどうか。

会 長 ・人を育てることが大事。金沢21世紀美術館では子供向けの企画を多く行っている。

文化課長 ・ちくに基金事業について、現在2校から申し込みがきている。

- ・文書館は10月開館に向けて準備している。
- ・飯沼飛行士記念館については展示内容に誤りがあるので、今後修正する必要がある。

会 長 ・資料の保存・収集が一番大事。文書館ができたなら各施設と連携していただきたい。以上で本日の協議会を終わります。

事務局 ・次回の博物館協議会は10月頃開催します。

(2) その他

8 その他

9 閉 会

以上

※会議概要は、原則として公開します。

※会議を非公開又は一部非公開とした場合は、その理由を記載してください。